

[豊かな心]

○いじめ・不登校の早期発見・早期対応に向けた組織的な支援体制の充実

いじめ問題については、積極的に認知していただき、丁寧な対応をしていただいています。法に基づく正確ないじめの認知について、もう一度校内で共通理解を十分に図っていただき組織として迅速かつ適切な対応を今後ともお願いします。また、不登校対策についてはチームで対応して丁寧な支援を進めていただいています。今後も、スクールカウンセラー等の専門家を交えたアセスメントを行い、要因の把握に努め、本人の心理的な状態を見極めながら、本人や保護者に寄り添った支援をお願いします。その上で、家庭環境に起因する不登校傾向児童生徒に対しては、個々に応じて福祉機関等と連携した支援を引き続きお願いします。

○生徒指導の3つの機能を生かした学級経営の充実

各学校では、「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」を意識した学級経営を心がけて児童生徒の成長を促す取組が展開されています。また、ピアサポートや構成的グループエンカウンターを取り入れた活動や児童生徒主体の児童会・生徒会活動などの特別活動の充実も見られました。今後も生徒指導の3つの機能に留意し、一人一人の児童生徒に寄り添った学級経営の一層の充実をお願いします。

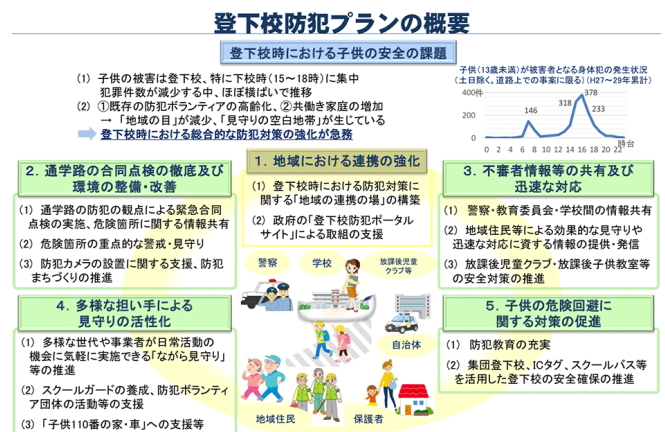
[健やかな体]

○児童生徒の主体的な健康行動に向けた組織的な取組の充実

生活習慣病予防対策やがん教育などの保健教育では、関係機関や外部講師と連携し、専門性を生かした指導を行っていただきました。また、学校保健委員会では事前に学級活動で課題解決策を話し合っ意見をもち寄ったり、事後に家族健康会議を実施して家庭へ啓発したりするなどの工夫がありました。これまでの活動をより組織的な取組へと充実させ、主体的な健康行動につなげてください。

○児童生徒の安全と安心に向けた取組の充実

全ての学校で危機管理マニュアルの整備と見直しが行われました。事故の未然防止に向け、WBGT指標をもとに体育的活動の実施方法を検討したり、複数の目で安全点検を実施したりする配慮も見られました。また、消防署などと連携した心肺蘇生法講習会や食物アレルギー緊急時シミュレーション研修などにより、発生時の対応について研修を行う学校も増加しました。一方、「登下校防犯プラン」に基づいた「地域の連携の場」が未設置の自治体があります。各町村の既存の組織を活用するなど、早期の構築をお願いします。



[幼児教育]

○幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえた環境の構成や援助の工夫

10の姿を具体的にイメージし、必要な体験を積み重ねていくことのできる環境構成の工夫により、幼児自ら身近な環境に主体的に関わる姿が多く見られました。また、遊びや生活の中で、先生が先回りして教えるのではなく、幼児が試行錯誤をし、困難を乗り越えられるように活動を見守ったり、幼児のつぶやきを周囲の幼児につなげたりする援助が多く見られました。

引き続き、幼児の思いや考えの変化を丁寧に見取り、内面の把握を大切に環境構成の工夫と、一人一人の幼児の思いを受け止めた援助を積み重ね、その子のよさや可能性などを引き出すタイミングのよい適切な援助の工夫をお願いします。